

第21回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「今、日本の美術史学をふりかえる」  
 (The 21th International Symposium on the Preservation of Cultural Property–The Present, and the Discipline of Art History in Japan–)

日本の美術史学は、西洋近代の学を範として明治20年前後に端を発し、今日まで約100年の歴史を歩んできた。日本の美術史学の歩みが、近代国家として西欧諸国に認知されようとする明治期以来の国情を背景とし、日本の文化的ナショナルアイデンティティーやナショナルヒストリーの形成に深く関わってきたことは言うまでもない。

そもそも「美術」が、翻訳語であり新たに移入された概念であったように、美術史学の用語や分類・思考の枠組み自体は、明治期以来、西洋の翻案と過去の再構築をめざすなかで新たにつくられたものであった。それらが美術史上の言説のなかで、意識化されない制度として今も大きな影響力を働かせていることは、研究者が広く認識すべき新たな問題となっている。

このような問題意識にたつて、日本の美術史学の歩みをふりかえるべく企画されたのが本シンポジウムであった。さまざまな議論のなかから、現在の日本における美術史学の課題と21世紀にむけた展望が多角的に示されることとなった。

日程：1997（平成9）年12月3～5日

会場：東京国立近代美術館

12月3日

第1セッション：近代と美術／近代と美術史 (Modernity and Art/Modernity and the History of Art)

	発表者	演題
1	高木博志 (北海道大学)	日本近代の文化財保護行政と美術史の成立 (The Administration of the Protection of Cultural Properties during Japan's Modern Era and the Formation of the History of Art)
2	北澤憲昭 (跡見学園女子大学)	日本美術史の枠組について (The Paradigms of Japanese Art History)
3	加藤哲弘 (関西学院大学)	近代日本における美学と美術史学 (The Study of Aesthetics and Art History in Modern Japan)
4	馬淵明子 (日本女子大学)	1900年パリ万国博覧会と <i>Histoire de l'Art du Japon</i> をめぐって (The 1900 Paris World Exposition and <i>Histoire de l'Art du Japon</i> )
5	Stefan Tanaka (カリフォルニア大学)	見いだされたもの：日本と西洋の過去としての日本美術史 (Discoveries: Japanese Art History as the Past of Japan and the West)

6	金子一夫(茨城大学)	近代日本美術教育の出発と風景画 (The Origins of Modern Japanese Art Education and Landscape Painting)
7	山梨絵美子(東京国立文化財研究所)	日本近代洋画におけるオリエンタリズム (How Oriental Images had been depicted in Japanese Oil Paintings since 1880's-1930's)

12月4日

第2日第2セッション：内なる他者としての東アジア (East Asia as Internal Other)

	発表者	演題
1	佐藤道信(東京藝術大学)	世界観の再編と歴史観の再編 (Reorganizing World Views, Reorganizing Historical Views)
2	岡田健(東京国立文化財研究所)	龍門石窟への足跡—岡倉天心と大村西崖— (Footsteps to the Longmen Caves: Okakura Tenshin and Omura Seigai)
3	宮崎法子(実践女子大学)	近代日本のなかの中国画研究 (The Study of Chinese Paintings during Japan's Modern Era)
4	山下裕二(明治学院大学)	雪舟に対する認識をめぐって (Perceptions of Sesshu)
5	井手誠之輔(東京国立文化財研究所)	「境界」美術のアイデンティティ—請来仏画研究の立場から— (The Identity of "Border" Art: As Seen from Research on Buddhist Paintings Brought to Japan)
6	洪善杓(韓国美術研究所)	韓国美術史研究の観点と東アジア (The Viewpoints of Korean Art Historical Research and East Asia)
7	Stanley K. Abe(デューク大学)	中国を見せる (Exhibiting China)

12月5日

第3セッション：語る現在、語られる過去 (The Present Speaks about the Past)

	発表者	演題
--	-----	----

1	山口昌男 (札幌大学)	近代日本における画家のアイデンティティー—美術と非美術の境界の諸問題 (A Painter's Sense of Identity in Modern Japan: Several Issues Related to the Boundaries between Art and Non-Art)
2	Joshua S. Mostow (ブリティッシュ・コロンビア大学)	日本の美術史における王朝の「みやび」 ("Miyabi" and Japanese Art Historical Discourse)
3	玉蟲敏子 (静嘉堂文庫美術館)	「日本美術の装飾性」という言説 ("Decorative" in Japanese Art Historical Discourse)
4	Timon Screech (ロンドン大学)	浮世絵の善と悪 (The Good and the Bad in Ukiyo-e)
5	長岡龍作 (東京国立文化財研究所)	「仏像の語り方」の境界—「弘仁」・「貞観」彫刻の語りが見せるもの (In and Around Discussions of Buddhist Sculptures: Modern Discourse on "Konin" and "Jyogan" Sculptures)
6	千野香織 (学習院大学)	日本の美術史言説におけるジェンダー研究の重要性 (The Importance of Gender in Japanese Art Historical Discourse)
7	木下直之 (東京大学)	日本美術の始まり (The Beginnings of Japanese Art)